

## P4-5 動画視聴のためタブレットを用いた人工股関節全置換術後の患者教育に対する満足度調査

○西村 美希(にしむら みき)<sup>1)</sup>, 上田 将之<sup>1)</sup>, 赤田 直軌<sup>1)</sup>, 武田 康平<sup>1)</sup>, 石田 哲士<sup>1)</sup>,  
本城 誠<sup>1)</sup>, 川那辺 圭一<sup>2)</sup>

1)滋賀県立総合病院 リハビリテーション科, 2)滋賀県立総合病院 整形外科

Key word : 動画, 患者教育, 動作学習

**【目的】**人工股関節全置換術(以下 THA)は疼痛の軽減と機能的改善が得られることから患者満足度の高い手術である一方、脱臼等の不安を抱える患者も少なくない。近年、患者の主観的な不安軽減に対する患者教育の有用性が多数報告されており、当院でも独自に作成したパンフレットによる患者指導を実施しているが紙面での情報量や動作理解に限界があると感じている。今回、疾患や治療内容の理解を深め退院後の生活や脱臼への不安解消を目的に患者教育用動画を作成し、それを視聴するために入院患者に対してタブレットを貸し出す取り組みを行いアンケート形式にて満足度調査を実施した。本報告では、パンフレットおよびタブレットの同時使用者の結果からタブレットの有用性について検討したので報告する。

**【方法】**2017年10月～2018年3月に当院で THA を施行した患者97名(男性16名、女性81名、平均年齢66.8歳)を対象に、THA 満足度調査を無記名のアンケート形式にて実施。アンケートの作成においては、各項目について5段階調査と自由記載欄を設定した。リハビリテーション科からの質問項目は、I. パンフレットに対する質問項目、II. タブレットに対する質問項目を設定した。それぞれの小項目は、

1. 使用頻度
2. 各ツールの役立ち度
3. 不安軽減に対する役立ち度(①手術 ②入院生活 ③リハビリ ④脱臼 ⑤退院後の日常生活)

4. 入院中の自主練習に対する役立ち度を設定した。

**【説明と同意】**アンケートの実施にあたり当院倫理委員会の承認を得た。対象者には、研究の目的・方法、自由意志、厳重なデータの管理、プライバシーおよび個人情報の保護について説明し、提出にあたり同意を得たと判断する旨の説明を行った。

**【結果】**アンケートの有効回答90例(有効回答率92.7%)のうちパンフレットおよびタブレットを両方使用した者は51名(使用率56.6%、平均年齢64.3歳)であった。

1. 使用頻度について、1週間に2回以上の使用はパンフレット43.1%、タブレット76.4%であった。
2. 各ツールの役立ち度について、パンフレット92.1%、タブレット96.0%が役だったと回答した。
3. 不安軽減に対する役立ち度の各項目の結果について、①

手術に対する不安軽減についてパンフレット80.3%、タブレット74.5%、②入院生活に対する不安軽減についてパンフレット84.3%、タブレット86.2%、③リハビリに対する不安軽減についてパンフレット88.2%、タブレット90.1%、④脱臼に対する不安軽減についてパンフレット82.3%、タブレット96.0%、⑤退院後の日常生活に対する不安軽減についてパンフレット76.4%、タブレット92.1%が役立ったと回答した。

4. 入院中の自主練習の役立ち度について、パンフレット84.3%、タブレット90.1%が役立ったと回答した。自由記載におけるタブレットへの記載として、利点は「予習・復習が出来た」「紙で見るよりわかりやすかった」「理解が進んだ」「不安が解消された」「入院生活がイメージ出来た」、欠点は「見にくい」「時間が長い」の順で回答が多かった。

**【考察】**今回のアンケート結果のうち、パンフレットとタブレットの同時使用者における分析の結果、パンフレットに対してタブレットの有用性に対する高い返答率を認めた。タブレットがパンフレットに対して5%以上高い返答率があったものについて考察を行う。1. 使用頻度と4. 自主練習に対する役立ち度については、60歳代のスマートフォン利用率は51.9%というデータからタブレット操作に対する苦手意識がなく必要な情報を必要なタイミングで取得出来るためと推察する。④脱臼と⑤退院後の日常生活の不安軽減に対する役立ち度については、学習初期には視覚的イメージ形成が効率的な運動技能習得の一要因になること、難易度の高い課題では文章とアニメーションを提示した場合に内容理解が促進することが言われており、脱臼肢位に留意した日常生活動作の習得に動画を視聴するためのタブレットの有用性が高い結果に繋がったと推察する。

**【理学療法研究としての意義】**THAにおける患者教育用動画の使用は、脱臼肢位や日常生活動作の理解、各動作の視覚的イメージの形成、自主練習において有用性が高く、通常のリハビリテーションに補助的に運用することで動作学習効率が高まる可能性があると考ええる。